2026/7/17 発行

令和８年７月号（No.273）

発行責任者
公益社団法人隊友会 神奈川県隊友会
湘南支部長 中尾 剛久
茅ヶ崎市赤羽根 2661 - 26
Tel：090-4897-4074

国民と自衛隊との架け橋！

隊友 湘南支部ニュース

「海上自衛隊の部隊改編（上）」

湘南支部長 中尾 剛久

梅雨明けが近づいてきました。梅雨の終期になると必ずと言っていいほど大雨が続き大災害が起きる傾向にありますが、今年はどうなのでしょう？大規模なエルニーニョの影響が大雨に繋がらないように祈っています。

さて、海上自衛隊は今年三月、創設以来の大規模な部隊改編を行いました。大きな改編としては二つ。これまで海上戦力の中核として活躍してきた「護衛艦隊」が各地方総監部隷下部隊を含むほとんどの水上艦艇を指揮下に収め、指揮命令の効率化と運用の自由度の向上を目的として「水上艦隊」に生まれ変わりました。

さらに、高度化する情報戦への対応のため、横断的な情報収集・分析とそれに基づく迅速な対処の実現を期して、海将を指揮官とするメジャーコマンドの一つとして「情報作戦集団」が創設されています。今回はこの大規模な部隊改編について私なりに考えてみたいと思います。

今回の部隊改編では巨大な「水上艦隊」の創設が話題になっています。これまで別の部隊であった「掃海隊群」を「水陸両用戦機雷戦群」として隷下に収め、各地方隊所属であった掃海艇やミサイル艇及び多用途支援艦まで取り込み、人員規模約一万二千名、九十三隻、約四十万トンという巨大な部隊になったのですから、ある意味目立つのは当然と思います。

しかしながら、私はもう一つの目玉である「情報作戦集団」の創設とその背後にある海上自衛隊の考え方について注目しています。

情報の重要性については、今更説明するまでもありませんが、昨今の急激な情勢の変化が情報業務に対する幅と深さの両面での要求を切実なものにしています。特に宇宙・サイバー・電磁波といった、新領域における情報戦への対応が重みを増した結果、海上自衛隊としても組織改編だけでなく、既存の仕組みを大きく見直してでも対応すべき事態が出来しているとの認識しているようです。既に、私が現役であった頃から海上自衛隊においては情報部隊の体制／態勢確立は悲願とも言うべき課題でした。このため、それまで副特技という扱いであった「情報」を主要な職域特技に格上げしました。これにより、艦艇や航空機といった海上自衛隊の主要職域と同様に独自のキャリアパスを形成し、人材育成する仕組みを整えることができるようになりました。

ところで、防衛省・自衛隊にとって、ヒト・モノ・カネという三大リソースの所要が満たされることは理想ですが、実際問題として、いまだかつてこれらが実現されたことはありません。にもかかわらず、これまでは「いざとなったら、ヒトもモノもカネも何とかなる。」という前提で物事を考えてきた節があります。

それは様々な計画作成や組織の作り込みの端々にこれまで見られた傾向であると思います。このうち、モノやカネについては、その時々の情勢や政策により、実現の可能性はゼロではないと思いますが、ヒトについては事情が異なります。我が国の若年人口は減少の一途をたどっており、見通せる将来にわたって回復の兆しは見えていません。海上自衛隊は今回、少なくともヒトに関しては現実的な視座（増えない、減っていく）に立つことにしたのであろうと思います。すなわち、最優先事項である「情報作戦集団」の創設を第一義にするとともに、現実的な目で部内を見渡し、艦隊をはじめとするその他の部隊等を横目で睨んで海上自衛隊としてのリソースの最適配分を図ったのが今回の部隊改編であると思います。

この結果、部隊改編は「水上艦隊」及び「情報作戦集団」の創設にとどまらず、地方隊における警備隊と基地業務隊の統合や地方隊隷下の基地隊等の改編など広範に及びました。先ほど述べた現実的な視座に立ち、業務の効率性と任務の遂行に必要な最低限の佇まいを追求した結果であろうと理解しています。

令和８年度 陸上自衛隊座間駐屯地研修・見学 参加報告

特別会員 栗田 恵子

令和８年６月５日㈮、神奈川県隊友会主催による陸上自衛隊座間駐屯地研修・見学に参加した。今回は日本国防協会との合同研修であり、参加者は約３０名であった。当日は曇天で気温も穏やかであり、屋外見学には大変恵まれた環境であった。研修は相武台前駅に集合し、座間駐屯地及びキャンプ座間の施設見学を中心に実施された。

座間駐屯地は神奈川県座間市に所在し、かつて陸上自衛隊中央即応集団司令部が置かれるなど、我が国の防衛中枢の一翼を担ってきた重要な駐屯地である。現在は米陸軍キャンプ座間と隣接し、日米共同使用施設として我が国の防衛及び災害対処において極めて重要な役割を果たしている。説明によれば、座間地域は古くから軍都として発展し、旧陸軍士官学校が置かれていた歴史を有している。

特に印象的であったのは、「相武台」という地名の由来である。昭和１２年（１９３７年）、昭和天皇により「相武台」と命名され、その記念として建立された「相武臺」の碑が現在も駐屯地内に保存されている。研修では実際にこの碑を見学したが、地域の歴史と我が国の近代軍事史を今に伝える貴重な文化財であると感じた。戦前にはこの地に陸軍士官学校が移転し、多くの将校がここで学び、日本陸軍の中枢を担う人材が育成されたとの説明を受け、近代日本の軍事教育の歴史を学ぶ貴重な機会となった。戦後は米軍施設として使用された時期を経て、現在の陸上自衛隊座間駐屯地へと発展している。【写真①】

編集委員：深澤文晴 ,℡: 090-4542-1982, Mail: f_fukazawa@yahoo.co.jp



写真① 相武臺の碑

今回の研修で特に興味深かったのは、防空壕（地下施設）の見学である。これは戦時中に建設された地下施設であり、天皇陛下が戦時や有事の際に避難されることを想定して造られた施設の一つ（御聖断の場）であるとの説明を受けた。入口は森林の中にひっそりと設けられており、外部からはほとんど存在が分からない構造となっていた。内部は堅牢なコンクリート構造であり、当時の防空技術や危機管理体制を知るうえで大変貴重な遺構であると感じた。【写真②】



写真②
天皇陛下用防空壕

昼食は隊員食堂（幹部用）において、指揮官等との会食形式で行われた。ハンバーグを中心とした献立は、栄養バランスに徹底して配慮された内容であり、自衛隊員の日常の一端を体験することができた。【写真③】

さらに、キャンプ座間内では日米共同運用の現状について説明を受けた。日米同盟の重要性や、平素からの共同訓練・情報共有体制について学び、我が国の安全保障が確固たる日米協力によって支えられていることを改めて認識した。また、基地内を移動する際には、意匠の異なる珍しいマンホールを目にするなど、日米の文化が融合した敷地ならではの興味深い発見もあった。【写真④】



写真③ 美味しい昼食



写真④ キャンプ座間内のマンホール

今回の研修を通じて、自衛隊の現在の任務だけでなく、旧陸軍士官学校以来の歴史や文化、さらには皇室との関わりについても理解を深めることができた。特に「相武台」の名称の由来や相武臺の碑、防空壕などは、戦後８０年を過ぎた現在においても、国防の歴史を後世に伝える重要な遺産であると感じた。

また、隊員の方々から災害派遣や国際協力活動、日々の勤務内容などについて直接話を伺う機会にも恵まれた。特に災害派遣における実体験に基づくお話は非常に興味深く、自衛隊が国民の生命と財産を守るために昼夜を問わず活動していることを改めて痛感した。

近年、大規模災害への対応はますますその重要性を増している。自衛隊が担う災害派遣活動と、私が防衛施設学会で研究を進めている「避難所における生活用水確保や入浴支援等の民間支援」との連携の可能性についても、深く考えさせられる契機となった。

今後も隊友会活動を通じて国防や防災への理解を深めるとともに、自身の研究活動を通じて、自衛隊や地域社会の防災力向上に少しでも貢献していきたい。

令和８年度部隊研修のお知らせ

支部理事役　高鹿　治雄

コロナ後初の研修先として、研修希望が多い厚木航空部隊研修を計画します。

１　研修日時令和８年９月４日(金)
１３３０～１９００（懇親会含む）
相模大塚駅北口集合・解散

２　研修先等(厚木航空基地)
・慰霊碑献花、黙祷→部隊現状説明→
・航空機見学（P-1他）→広報資料館
・懇親会(米海軍基地施設トリロジー)

３　参加者募集要領
①募集人数　３０名限定
②応募資格者　会員及び会員紹介者
③応募者多数の場合は先着順

４　参加費等
①研修　参加費無料(交通費等自弁)
②懇親会　参加費５千円(全員参加)

５　申込要領
①会員：氏名、生年月日、住所、連絡先、身分証明書の種類(詳細要確認)
②会員以外は研修案内のとおり。
③申込期限：８月５日(水)
④申込先：部隊研修担当　高鹿治雄
Mail：kohroku@rokumeikan-icomnet.com
TEL：080-1133-0252 FAX：045-935-5162

６　その他
・服装は軽装(カジュアル)
・自衛隊、自衛官に興味のある学生、生徒さんの参加も大歓迎です。

隊友会本部　表彰状（敬称略）



平川幹雄 氏

(1)湘南支部理事役　平川幹雄

神奈川県隊友会　感謝状・表彰状

感謝状 被贈呈者５名（順不同・敬称略）
(1)特別会員　河野太郎
(2)特別会員　星野剛士
(3)特別会員　松長泰幸
(4)特別会員　市川和広
(5)特別会員　加藤大嗣

表彰状 被贈呈者３名（順不同・敬称略）
(1)湘南支部理事役　田中　了
(2)湘南支部理事役　藤間順一
(3)湘南支部理事役　皷　達也



田中 了 氏



藤間順一 氏



皷 達也 氏

令和８年度年会費納入者（敬称略）

湘南支部長（六月十七日現在）

次の会員各位から年度会費を納入していただきました。ご協力に感謝申し上げます。

特別会員
日下部亘男、

湘南支部ニュースは、神奈川県隊友会のホームページにも掲載されています。
URL：https://www.taiyukanagawa.com/

「支部の予定」

- **08/17（月）**
  ８月号隊友紙発送
- **09/04（金）**
  部隊研修(厚木基地)
- **09/18（金）**
  ９月号隊友紙発送
- **09/26（土）**
  第６回支部理事役会
- **10/03（土）**
  安全保障トークサロン
- **10/23（金）**
  10 月号隊友紙発送
- **11/07（土）**
  第７回支部理事役会

編集後記

今後とも各種ジャンルに亘る、ご寄稿のご協力を宜しくお願い致します。

編集委員：深澤文晴　,℡:　090-4542-1982,　Mail:　f_fukazawa@yahoo.co.jp